

物流博物館

NEWS VOL. 13

2014年10月31日発行

江戸～明治時代の街道の旅、一見すると物流とは何の関係もないように思えますが、実は、街道沿いに設置された宿場は当時の陸上輸送にとって重要な役割を果たしていました。

今回の特集は、これまであまり公開する機会のなかった当館所蔵の街道の旅と輸送に関する資料を用いて、江戸時代から明治初期にかけての陸上交通の変遷をたどった企画展をご紹介します。

この展示は、同時期に開催された埼玉県立歴史と民俗の博物館の特別展「江戸の街道（みち）～絵図でたどる宿場と関所～」の共催事業「にっぽん歴史街道展」（計5館で開催）の一環として企画されたものです。

特集 企画展 館蔵資料展 会期:2014年7月19日～8月31日

街道の旅と輸送 ～江戸から明治へ～



島田 人馬継立 東海道五十三次 歌川広重(三代)画 明治4年(1871)



東海道・瀬戸付近を行く定飛脚
『東海道名所図会』巻之四 寛政9年(1797)刊



伝・飛脚問屋 京屋弥兵衛 麦湯接待用茶釜
永井英子氏寄贈 江戸時代
飛脚問屋の京屋弥兵衛の店先で来客のための
麦湯接待に使用されていたと伝えられています。



旅籠屋の持ち物入れ (江戸時代)
金鱗という旅籠屋に備え付けられていた所持
品入れ。おそらく箱は部屋に置かれてあり、鍵
を貸し出すシステムだったと思われます。本当に
大切な品は宿主に預けるようにとある文面は、
今でいえばフロントにお預けください、といった
ところでしょう。

特集 ～館蔵資料展～

街道の旅と輸送 ～江戸から明治へ～

当館は、昭和33年（1958）に日本通運株式会社本社内に開設された「通運史料室」（のち、「物流史料館」と改称）を前身としています。日本通運（株）は、江戸時代の飛脚問屋仲間が明治初期に設立した内国通運会社の後身にあたり、「通運史料室」でもそのような歴史に鑑み、明治以降の社史に直接かかわる資料以外にも、江戸時代の街道や旅、輸送など交通全般に関する資料を早くから収集していました。当館ではこれらの日本通運（株）所蔵資料を引き継いで、保存・管理・公開を行っています。

今回の展示は館蔵資料展という位置づけで行いました。展示資料は全て収蔵資料を用い、全体を通して江戸時代の街道輸送の仕組みと、明治以降の変化の様子を理解できるように構成しました。江戸時代は、交通政策の根幹となった伝馬制度に関する資料、関所手形、河川の渡しを描いた絵画資料、街道の旅籠屋と旅籠屋の講（組合）関係の資料、名所図会、携帯用の街道図、旅道具、道中日記、飛脚に関する資料、馬による輸送業者の資料などを展示しました。

明治時代以降は、街道輸送の仕組みを新政府が変革していく過程を示す資料や、飛脚問屋仲間によって設立され、明治政府の保護を受けて、江戸時代の街道輸送の仕組みに代わり全国的な輸送網を形成した内国通運会社に関する各種資料、旅籠屋の広告、明治期の旅籠の講などについて紹介しました。また、江戸・明治時代の各コーナーでは、当時の旅の雰囲気伝えるために、それぞれの時代のガイドブックに掲載された各宿場の旅籠屋の画像を計約60点展示しました。街道輸送は明治10年代後半に至って再び様相を変えていきますが、展示はその頃までを時代的な下限としました。

来館者は展示が夏休み中ということもあり、期間中 1,459 人を数え、まずまずの集客数となりました。（企画担当学芸員：玉井幹司）



東海道分間(ぶんけん)絵図 桑楊編 天明年間(1781～88)改訂再版
江戸から京都までの東海道を描いています。縦16.7cm・横8.8cm・厚さ2.5cmと、旅人が携帯するのに便利なコンパクトな形でありながら、広げると全長約11.9mもの長さになります。本図には宿場や立場、街道沿いの村々の名前、各宿場間の距離、一里塚、方角、川（橋や渡し舟の有無）、名所や各地のガイドなど、旅をする上で必要な情報がぎっしり詰まっています



(右) 宮城県七ヶ宿の宿屋の軒先に掲げられた真誠講看板
撮影：昭和30年代
現在この建物は取り壊されています。

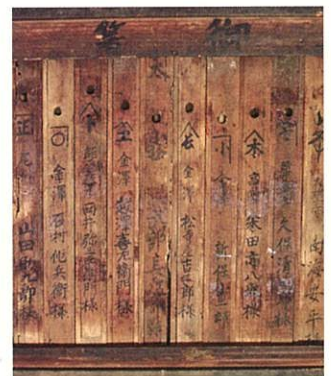
(左) 真誠講看板 明治時代

明治時代になっても鉄道が未発達の前には、物資輸送の大部分は江戸時代までと同様、護送人が荷物を積んだ牛馬とともに、宿泊を重ねながら街道を往来するという方法で行っていました。そこで、内国通運会社では明治7年(1874)から、輸送の拠点となる優良な旅館を組織して「真誠講」を結成するとともに、これらの旅館を一般に紹介するサービスを行いました。



越中荷主御箸箱 明治時代

滋賀県長浜市にあった運送店に残されていたもの。上部中央の「越中荷主御箸箱」の文字通り、沢山の箸箱が入っています。箸箱にはそれぞれに家印・地名・名前（様がつけられています）が書かれており、恐らく、荷物と一緒に頻りにやってくる荷主のために用意されていたものではないでしょうか。いくつか敬称のない名前のみが記された箸箱もありますが、詳細は不明です。箸箱の地名を見ると、高岡（富山県）、越中氷見（富山県）のほか、金沢（石川県）、小松（石川県）などからこれら荷主の人々が長浜へやってきたことが推察できます。現在残っている箸箱は、破損しているものも含めて47。そのうち一つにだけ、「明治九年子歳十二月三日造之」と側面に墨書があり、明治時代初期に使用されていたことがうかがえます。



2013年度の物流博物館をふり返って～業務日誌より～

4月	5月	6月	7月	8月	9月
6,20 日 高輪伝馬の会 (古文書勉強会)	11,25 日 はじめての 古文書 (古文書講座入門編) 18 日 高輪伝馬の会	8,22 日 はじめての 古文書 1,15 日 高輪伝馬の会	6,27 日 高輪伝馬の会 27 日 なつやすみ 映画会 30 名	10,17 日 ダンボール 工作コーナー 100 名 21 日 美術品の梱包・ 入門編 28 名	15 日 映画上映会 20 名 特別展開連事業 21 日 高輪伝馬の会 9月10日～10月27日 特別展「明治・大正・昭和の鉄道 貨物輸送と小運送」開催
3月23日～6月30日 共催ミニ企画展「内航海運って何？」開催					
10月	11月	12月	1月	2月	3月
5 日 高輪伝馬の会 13 日 映画上映会 56 名 特別展開連事業 19 日 古文書講座 ～10月27日 特別展開催	2,16,30 日 古文書講座 7 日 古文書講座 21 日 クリスマス・ サンタクロース映画会 43 名	18 日 高輪伝馬の会	1 日 高輪伝馬の会	1 日 高輪伝馬の会	1 日 高輪伝馬の会
10月13日～2014年1月21日 ミニ展示「収集家によるマルツウ資料コレクション展」					

追憶・西関東の鉄道貨物輸送

会期:2014年5月3日～6月29日

～鉄道貨物研究家・渡辺一策氏のフィールドノートから～

物流ワールドに魅せられて、いろいろな趣味を極める達人たちを紹介する当館のシリーズ企画「達人シリーズ」の第2弾として企画展を開催しました。今回ご登場いただいたのは、鉄道趣味の世界でも鉄道貨物輸送に関心が持たれることのなかった昭和40年代以来、鉄道貨物輸送研究を趣味として長年続けてこられた渡辺一策氏です。氏とともに、高度経済成長期の西関東の資材輸送を中心とした鉄道貨物輸送を回顧しました。

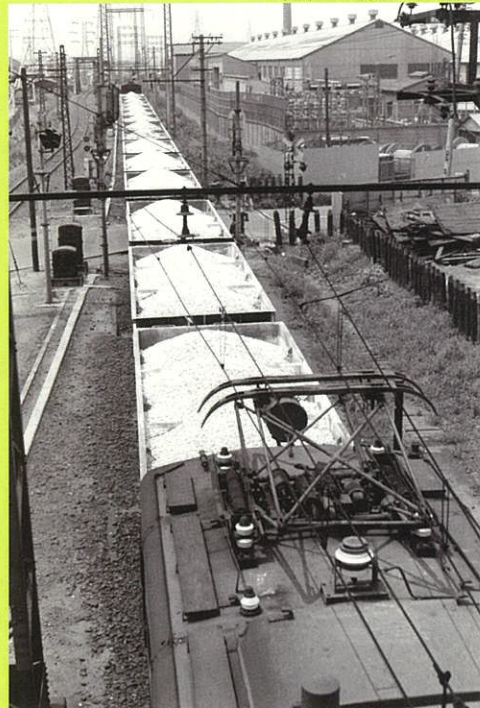
渡辺一策氏は、昭和40年(1965)頃から鉄道貨物輸送に関心を深められ、主に西関東地区(*)をフィールドとして各路線の調査活動を実施、また、1980年代後半以降は各鉄道雑誌への寄稿や単著の刊行など、貨物輸送に関する多くの著作を発表してこられました。日本の鉄道貨物愛好家の草分け的な存在の一人といえます。

展示では、こうした渡辺氏の長年にわたる活動の中から、とくに高度経済成長期からオイルショック後の時代にかけて行われた調査活動の成果に注目し、西関東の鉱石を中心とした資材輸送について紹介しました。鉄道貨物全盛期だったともいえる高度経済成長期、なかでも西関東の鉱石輸送は、主に採掘された自前資源を輸送したところに特徴がありました。渡辺氏はこの点に興味を感じて調査活動を行い、詳細なフィールドノートと写真記録を残しています。これらの記録を通し、渡辺氏が目撃した昭和40年代から50年代にかけての西関東の資材輸送を復元し、往時の実態に迫りました。

6月8日・21日には渡辺氏の講演会を行い、展示協力・執筆を依頼した澤内一晃氏とともに「高度成長を支えた西関東の鉄道貨物輸送」についてお話いただきました。展示は鉄道趣味誌各誌のほか、鉄道趣味界の有名ブログでも取り上げられ大きな反響を呼びました。展示期間中の来館者数は2,618名を数え、過去最高を記録しました。

*「西関東地区」について：本展で「西関東」と称している地域は、昭和44年(1969)、東京鉄道管理局から分割された東京北、東京南、東京西、の3管理局のうち、東京西局に属する地域を基準とし、国鉄のほか、地域内で貨車連絡輸送があった私鉄も含めています(ただし山手線の一部を除き、また一部の他局管内を含めています)。(企画担当芸員：玉井幹司・三田芳美)

※以外全て渡辺一策氏撮影



浜川崎駅に到着する石灰石列車 昭和41年(1966)8月1日



渡辺一策氏のフィールドノート※
昭和29年(1954)～昭和56年(1981)使用



西武多摩川線・競艇場前駅の砂利積み替え設備 昭和36年(1961)1月29日



米軍の私有タンク車 拝島駅構内 昭和43年(1968)5月



日本セメント(株)埼玉工場を出発するD51形牽引のバラ積みセメント専用列車
昭和42年(1967)6月25日

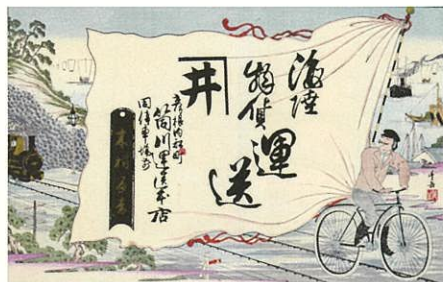


青梅線を走る石灰石・生石灰専用列車 昭和40年(1965)9月5日

2012～13年度に行った特別展・企画展・ミニ展示

企画展 はこぶを広告する はこぶで広告する ～はこぶ引札あれこれ～

会期:2013年2月2日～3月10日



引札は現代のチラシにあたるもので、江戸時代に起源をもち、明治以降は凝ったデザインのものが増えられました。商店の文字情報とあわせて色鮮やかな絵柄が描かれ、商売に直接関係あるものから、七福神などおめでたいもの、当時の最新の風俗まで幅広く題材となっています。

本展では運送店が発行した引札を集め、店主たちが「はこぶ」仕事をどのようなイメージにのせて顧客にアピールしていたのかを追いました。また、多様な業種で用いられた「はこぶ」にまつわるデザインの引札を紹介し、「はこぶ」の生成するイメージや、それらが語る人々の願いを読み解きました。関連事業として「高輪招福らくご会」を開催しました（出演：柳家小里ん・柳家小ゑん・入船亭ゆう京）。

（写真：彦根の運送店の引札）

特別展 明治・大正・昭和の鉄道貨物輸送と小運送

会期:2013年9月10日～10月27日



2013年は明治6年（1873）に鉄道貨物輸送が開業してから140周年に当たるとともに、「小運送業」「通運業」などと呼ばれてきた鉄道貨物取扱業にとっても、初めて業務が開始されて140年目の年でした。以来、駅から先の輸送業務を担当し、輸送の差配を行う鉄道貨物取扱業は、鉄道貨物輸送にとってなくてはならない大きな役割を果たしてきました。

本展では、両者の140周年を記念して、日本の物流を支えた鉄道貨物輸送と鉄道貨物取扱業（小運送業）の明治・大正・昭和戦前期の動向について、これまであまり公開されてこなかった館蔵資料を用いて、その概要の紹介を行いました。関連事業として映画上映会「戦中戦後の鉄道貨物輸送」を開催しました。

（写真：機関車に牽引される宅扱専用貨車 伊藤英雄氏撮影）

ミニ展示 収集家によるマルツウ資料コレクション展

会期:2013年10月13日～2014年1月21日

上記の特別展「明治・大正・昭和の鉄道貨物輸送と小運送」展に連動する形で、小運送の歴史にかかわりの深い日本通運（株）とその前身となる明治時代の陸運元会社、内国通運会社に関係する資料を集めているコレクターの方に協力頂き、その収集資料の一部を展示しました。



共催ミニ企画展 内航海運って何？

会期:2013年3月23日～6月30日

日本内航海運組合総連合会と共催で、暮らしと産業を支える内航船について紹介した展示を行いました。

（写真：日本内航海運組合総連合会提供）



人気の古文書関連イベント紹介

～はじめての古文書 古文書講座入門編～

2013年に新規開講した講座です。これから古文書を読みたい、という方のために典型的なくずし字の読み方や、江戸時代の古文書のパターンに触れて、楽しみながら古文書に親しんで頂くことを目的として開催しました。

講師：学習院大学非常勤講師 田中潤先生

実施期間：2013年・2014年の5月～6月（各4回）



田中先生と受講生の皆さん

～歴史講座～

2014年に新規開講した講座です。「本州中央内陸部における商品流通と輸送一甲州街道の成立から中央線の開通まで」と題し、5回にわたって戦国時代から明治時代に至るまでの変遷について、当時の史料（古文書）を交えながら、わかりやすくお話いただく講座です。

講師：交通史研究会（現・交通史学会）前会長 増田 廣實 先生

実施期間：2014年10月～12月（全5回）

古文書勉強会「高輪伝馬の会」

2013年まで開講していた「古文書講座」参加メンバーのうち希望者が集まり、2003年11月にスタートした自主的な古文書の勉強会です。原則として毎月第1・第3土曜日に活動しています。

「馬文化体感展」（帯広）に協力

北海道の馬文化の啓蒙・普及を行っているNPO法人とかち馬文化を支える会が毎年帯広競馬場にて開催している「馬文化体感展～開拓から共に生きた馬たちと～」に、当館収蔵の昭和20年代～40年代に撮影された荷馬車写真を貸出し、36点が展示されました。

会期：2014年9月27日～10月31日

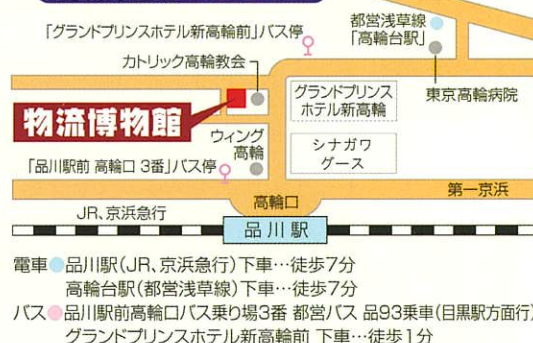
会場：北海道帯広競馬場



写真展示会場風景

物流博物館のご案内

物流博物館へのアクセス



所在地 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15 Tel 03-3280-1616 Fax 03-3280-4385 <http://www.lmuse.or.jp> 開館時間 午前10時～午後5時
休館日 毎週月曜日及び毎月第4火曜日（但し祝日・振替休日の場合はその翌日）、祝日の翌日（土日を除く）、年末年始、展示替期間
入館料 高校生以上：200円 65歳以上：100円 中学生以下無料 ※学校関係の団体は入館料が免除になります。